

令和6年度（2024年度）
函館市西部地区再整備事業
町会活性化プロジェクト

実施報告書

令和7年（2025年）3月

函館市
都市建設部まちづくり景観課
市民部市民・男女共同参画課

目次

- 1 町会活性化プロジェクトとは P 1
- 2 モデル町会のこれまでの取組 P 3
- 3 令和6年度（2024年度）の取組 P 6
- 4 令和7年度（2025年度）の取組 P 10
- 5 今後の進め方について P 10

1 町会活性化プロジェクトとは

函館山麓の西部地区は、異国情緒漂う歴史的な町並みや美しい景観などの魅力的な環境に、ここで生活する方々の日常の暮らしが相まって、市民のみならず多くの観光客が訪れる地区となっているが、近年、人口減少や高齢化等によりまちの活力は低下し、空家・空地が増加するなど、地区の魅力を失いかねない状況にある。

そのため、これらの課題解決に取り組みながら、将来にわたって持続可能な西部地区ならではの暮らしと風景を構築し、市内外の多様な方々の移住などにより定住人口の回復と交流人口の底上げを目的とする西部地区再整備事業を実施するため、本事業の基本的な考え方や方向性を定めた「函館市西部地区再整備事業基本方針」（以下「基本方針」という。）を令和元年（2019年）7月に策定した。

基本方針では、将来像として「西部地区ならではの『まちぐらし』の実現」を掲げており、その実現に向けて以下の3つの重点プロジェクトを推進することとしている。

- ・ 共創のまちぐらし推進プロジェクト
- ・ 既存ストック活性化プロジェクト
- ・ 町会活性化プロジェクト

「町会活性化プロジェクト」では、人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下により、町会の資金力や活動量が減少し、その存続にも大きな影響を与えていることから、モデル町会を選定し、市職員や学生などの新たな人材が町会に深く関わり、町会と協働しながら状況を分析し、具体的な方策を検討することで、町会の活性化を図る取組を進めていくこととしている。

○ 将来像

西部地区ならではの「まちぐらし」の実現

地区の歴史と文化を受け継ぎ、
自分の日常をまちで活かしながら
人とのつながりを育み、新しい暮らしを紡ぐ

「西部地区ならではのまちぐらしの姿」

- ・ まちそのものを家として暮らす
- ・ 自分たちの暮らしを自分たちで創る
- ・ 人のつながりの中で暮らす
- ・ ここにあった新しい暮らしを楽しむ

○ 重点プロジェクト

共創のまちぐらし推進プロジェクト

● 目的

市民等と行政が連携して、共創による取組の検討・実施・検証を行う仕組みを構築する。

● 事業内容

- まちぐらし事業の検討・実施・検証
- まちを学ぶ場の提供

ソフト事業
(官民連携促進)

既存ストック活性化プロジェクト

● 目的

空家・空地等の既存ストックの活用策を検討・実施し、良好な宅地の供給や生活利便施設の導入などを進める。

● 事業内容

- 不動産データベースの構築
- 民有の低未利用不動産等の流動化促進
- 公有の低未利用不動産等の利活用

ハード事業
(街区整備・建物改修)

町会活性化プロジェクト

● 目的

市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化につながる取組を進める。

● 事業内容

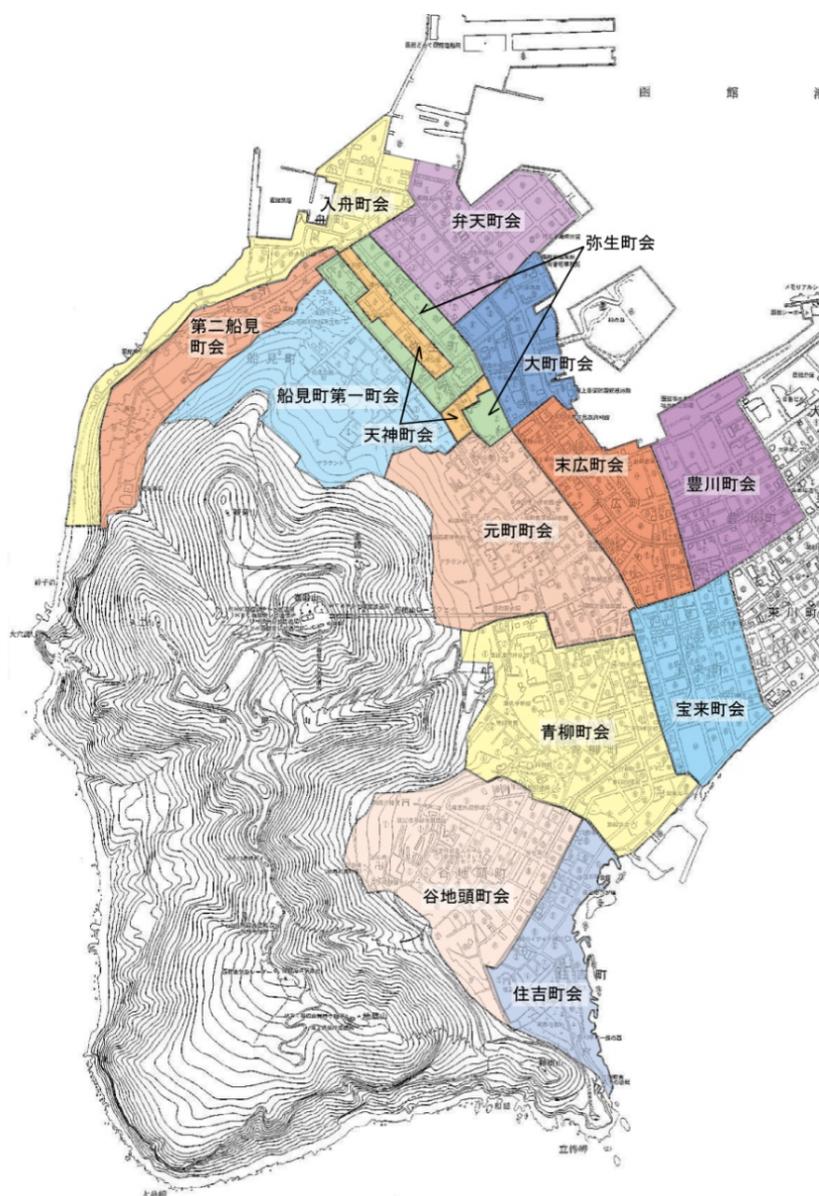
- 新たな人材との協働による町会活性化の推進

ソフト事業
(町会活性化)

ソフト・ハード両面からの取り組み

なお、本プロジェクトの対象町会は、基本方針の対象地区にある14町会とする。

対象町会：入舟町会、船見町第一町会、第二船見町会、弥生町会、
天神町会、弁天町会、大町町会、末広町会、元町町会、
青柳町会、谷地頭町会、住吉町会、宝来町会、豊川町会
合計 14町会



2 モデル町会のこれまでの取組

元町町会

期 間：令和元年度（2019年度）

課題・方策：役員および町会活動参加者が減少・高齢化しているため、将来の担い手育成のため町会活動に若い世代の参加を促すこと

実施内容：親子向け行事「もちづくり・豆まき大会」の開催

実施結果：予想を上回る参加があり、かつ、参加者の満足度も高かった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の継続には至らなかった。



弁天町会

期 間：令和2年度（2020年度）～令和4年度（2022年度）

課題・方策：担い手不足による若い世代向けの町会活動が実施できないため、若い世代が参加しやすい環境・仕組みをつくること

実施内容：子ども向け行事「しゅくだいくらぶ（勉強会）」および「スマイルくらぶ（遊びの場）」の定期開催

実施結果：町会に関わる新たな人材として、函館「荘」プロジェクトと協働し、町会活動に若い世代が参加する機会を創出した。新型コロナウイルスの影響で一時休止したが、多くの参加があり満足度も高かったものの、運営メンバーの多忙により令和4年度で終了し、継続性の観点から課題があった。



弥生町会

期 間：令和4年度（2022年度）～令和5年度（2023年度）
課 題：役員の平均年齢が若く、活発に活動している一方、町会員の多様なニーズに応えるため活動が拡大していること

実 施 内 容：持続可能な町会活動に向けた運営方法の構築

実 施 結 果：納涼祭の運営方法見直しをテーマに、市職員が町会と協議し、地域の小学校等からの備品借用や道路占用による会場確保の仕組みを整理するとともに、共創サロンなどの場を通じた情報発信により他町会への共有に努めた。さらに、西高の教諭・生徒が地域住民の困り事を解決する仕組みを検討するため、茶話会に参加しヒアリングを行った。



青柳町会

期 間：令和4年度（2022年度）～令和5年度（2023年度）
課 題：役員の平均年齢が若く、役員の得意分野（イベント開催ノウハウ、デザイン等）を活かしながら、活発に活動している一方、仕事や子育ての都合で町会活動の担い手として参加できない役員が多いことに加え、町会館の解体を検討しているものの、必要な資金が不足していること

実 施 内 容：資金調達に向けたバザー（既存行事）の運営方法の見直し

実 施 結 果：市職員が役員会や町会行事に参加し、意見交換を通じて協議を行いながら、子どもが担い手として参加できる仕組みづくりのため、小学生がボランティアとして参加したほか、来場者増加のため他団体との連携を行うとともに、共創サロンなどの場を通じて情報発信し、他町会への共有に努めた。





課題検証

モデル町会の期間が終了し、市職員や学生等の新たな人材の関わりがなくなると、取組の継続が困難となる事例があったほか、新たな人材が取組の主体となってしまうことにより、地域住民の関わりが希薄になる事例があったことは、継続性の観点から課題があった。

町会活動は、街路灯の管理や防犯・防災対策など、本来、町会が担うべき活動が停滞すると、地域住民の生活はもとより、観光客など地域を訪れる方々にも影響が大きいことから、基本方針に定める将来像を実現するためにも、モデル町会と十分に対話し、相互理解を深めたうえで、必要な人材や連携を内外の団体等に求めながら、取組を進めていくことが重要である。

3 令和6年度（2024年度）の取組

谷地頭町会をモデル町会として選定し、自律的かつ継続的に活動できるよう、具体的な取組を実施することとした。

1 特性

- ① 人口：1,232人 世帯数：716世帯（R6、4月末現在）
- ② 広報：町会だよりを原則毎月発行し戸別配布。ホームページあり。
※回覧版なし
- ③ SNS：なし ※令和6年5月、フェイスブック（きらく荘学生管理）のアカウントを削除
- ④ 行事：七夕祭り、夏祭り、文化祭など1年を通して適宜イベントを開催
- ⑤ 地域特性：
 - ・ 函館山の東麓に位置し、豊かな自然と歴史的建造物等を併せ持つ
 - ・ 津波災害警戒区域が広範囲にわたり、土砂災害警戒区域も一部存在
 - ・ 1953年に開業した歴史ある温泉施設「谷地頭温泉」が立地
 - ・ 市電終点の「谷地頭」電停があり、市内中心部からのアクセスが良い

2 課題／取組

役員の高齢化が進み、大半の役員が複数の役職を兼務するなど、役員の担い手不足が生じていることから、役員会やイベントに参加しながら持続可能な活性化方策を協働で検討した結果、「防災訓練の見直し」と「デジタル化の推進」の2つをテーマとして設定し、取り組むこととした。

3 取組内容

(1) 防災訓練の見直し

ア 出前講座（災害に備えて）の開催

10月に予定している防災訓練に向けて、町民の防災知識の向上を目的に9月に開催。講師は市総務部災害対策課の職員が務め、防災の基礎知識から始まり、北海道が作成した津波災害の動画を挟みながら、谷地頭地域に特化した災害リスクや避難経路について説明があった。

講義は、分かりやすい言葉とシンプルな内容・構成で進められ、特に谷地頭地域の災害リスクに関する話が出た際には、多くの参加者がうなずく場面が見られ、関心の高さがうかがえた。西部地区は、津波災害時に函

館駅から大森浜までのエリアが浸水によって分断され、孤立化するおそれがあり、災害への備えが改めて重要であることを参加者とともに再認識した。

質疑応答では3名から質問があり、そのうちの1人から「家族構成によっては、介護者や障がい者がいる家庭もあり、早めの避難が原則とは分かっていても、すぐに避難できない世帯もある」という意見があった。これに対し、講師からは「あらかじめ災害の種類に応じた避難計画を作成し、避難に時間を要する人ごとに支援者を検討することが重要である」との説明があった。



防災講座の様子（令和6年9月20日開催）

支え合える地域をめざして！

みんなで学ぼう

出前講座 災害に備えて

2024年9月20日（金）
10時～11時15分
場所：谷地頭町会館

講座内容

講師 函館市総務部災害対策課
主査 田中 律好

講座内容
谷地頭地区の災害リスク、
避難方法等について

主催：谷地頭町会
お問合せ、参加申込み 22-0751

イ 防災訓練の実施

10月には青柳小学校で、市総務部災害対策課の職員2名が講師を務め、防災訓練が実施され、町民約20名が参加した。コロナ禍を境に防災訓練が途絶えていたため、今回が数年ぶりの開催となった。

今回の訓練では、発電機の操作や段ボールベッドの組み立て訓練といった一般的な訓練項目に加え、避難所である青柳小学校の備蓄品の保管場所を見て回り、どこに何が保管されているのかを確認した。

講師からは「このような訓練の実施事例はあまりない」との話があったが、大災害時には市の職員が直ちに避難所へ駆けつけることは困難であり、地域住民が初動対応を行うために必要な知識であることから、他の地域でも実施すべき訓練である。西部地区全体で防災訓練の実施が広がるよう、機会を見つけて谷地頭町会の実施事例を紹介したい。

なお、次回の訓練に備えて、避難所である学校を利用する際の学校施設使用許可申請手続や町民への周知方法などをマニュアル化した。

また、段ボールベッドやテントの組み立て訓練では、小学生が簡単に組み立てる姿が見られた一方で、参加した高齢者の中には、かがむなどの動作が難しい人もいた。そのため、実際の避難時には子どもたちが共助の重要な役割を担うことが期待される。今後は、より多くの子どもたちに訓練へ参加してもらえる仕組みづくりが課題であると感じた。



防災訓練の様子（令和6年10月20日開催）

支え合える地域をめざして！

みんなで学ぼう 谷地頭町会 防災訓練

2024年10月20日（日） 9時30分～
場所：青柳小学校 事前申込み必要

訓練内容 小雨決行。荒天中止

※津波災害を想定

- 避難訓練 ※ 上靴持参
9:30 自宅から青柳小学校 グラウンド に向かって避難
- 避難所開設訓練
- 備蓄品確認訓練
- 防災資機材組立、操作訓練
- 函館市による講評



主催：谷地頭町会

お問い合わせ、参加申込み

22-0751

ウ 「災害 VR」体験会の開催

11月3日に開催された町民文化祭に併せて、TOPPAN（株）の協力のもと「災害 VR」体験会を開催し、50名の参加があった。

町会役員から、綿あめの無料配布等、子ども向けの内容に寄ったイベントであったが、高齢の参加者にも体験してもらえるものがあってよかったとの感想があった。災害に全く興味がない人にもこのようなVRによる体験会は効果的であり、別のイベントでも提供したいとの声もあった。他の町会からの需要も一定程度あるものと思われる。



災害 VR 体験会の様子（令和 6 年 11 月 3 日開催）

TOPPAN コンテンツ体験会

防災と健康のデジタルコンテンツを
体験してみましょう！



地震・津波・風水害。
自然災害を体験するVR「災害体験VR」
防災意識向上を、リアルな体感経験で。



「はこだて健幸アプリ～Hakobit～」は、どなたでも利用できる健康系アプリ。歩いて・記録して・参加して、いろいろな特典をゲット

(2) デジタル化の推進

「町会デジタル化促進講座」（主催：函館市市民部）に町民8名が参加し、「②SNSによる情報共有・LINE編」を受講した。LINEを活用した連絡ツール等の使い方を学び、基本機能のおさらいに加え、画像添付、テレビ通話、グループ作成などの操作を習得。これにより、役員間の連絡方法の効率化が図られた。

なお、SNSのさらなる活用により町会運営の一層の効率化が期待されるとともに、若い世代や現役世代の町会活動への参加促進も見込まれるため、市と町会で協議し、来年度もモデル町会を継続し、引き続き検討・協議を行うこととした。



町会デジタル化促進講座の様子（令和 6 年 11 月 21 日開催）

令和 6 年度 町会デジタル化促進講座



内容 町会運営のデジタル化に必要なパソコンやタブレット、スマートフォン等で利用できる身近なツール（SNSなど）の基本的な知識や操作方法といったデジタル化のメニューにより講座を行います。

- ◆ 受講内容：講座メニューから、一つ選んでいただき、デジタルの活用に必要な知識や操作方法、基礎的な使い方などについて、デモ操作による実感を交えながら学びます。
- ◆ 受講人数：1講座 5～10名程度
- ◆ 所要時間：1時間30分程度
- ◆ 開催回数：今年度は、10回開催予定
- ◆ 申込方法：所定用紙に必要事項をご記入のうえ、お申込みください。
- ◆ 申込先：ビデオ・ザ・キッド(委託先)

講座メニュー

- | | |
|--|---|
| ① SNSによる情報発信 ・Instagram編 ・LINE編 ・Facebook編 アカウントの取得方法や活用方法など | ② SNSによる情報共有 ・LINE編 連絡ツールの活用方法や連絡体制の作り方など |
| ③ Webによる負担軽減 ・Zoom編 ・E-mail編 Web会議の実施方法やメールの活用方法など | ④ 基本ソフトの学習 ・Word編 ・Excel編 文書作成や会計に活用できる表計算など |

お問合せ 有限会社ビデオ・ザ・キッド（須田） ☎ 32-8334 / 市民部市民・男女共同参画課 ☎ 21-3140

4 令和7年度（2025年度）の取組

谷地頭町会とは、「デジタル化の推進」について検討協議を行うほか、防災訓練について、青柳小学校を避難所として想定する他の地域と合同で実施することが効果的であると考えられるため、実施に向けた検討を進める。

また、他の町会と比べて町会加入率が高いため、そのポテンシャルを活かした、町会活動への参加促進方策について検討を行う。

5 今後の進め方について

「2 モデル町会のこれまでの取組」に記載のとおり、モデル町会によっては課題の分析や必要な方策の検討が十分に実施できず、選定期間終了後に取り組みの継続が困難となるケースも見られた。

そのため、今後はモデル町会の特性に応じた進め方を工夫するとともに、防犯・防災対策など町会の基本となる活動を中心に据え、選定期間終了後も新たな人材や団体と協働し、町会が自律的かつ継続的に活動できるよう支援する。

また、モデル町会以外の町会にも引き続き取り組みを共有し、必要に応じて町会同士の連携を促すほか、地域内外の団体や企業の協力を得ながら、西部地区全体の町会の活性化を図る。